

大雨から身を守り隊



申し込み番号 143 秀峰筑波義務教育学校5年 菊地浩生

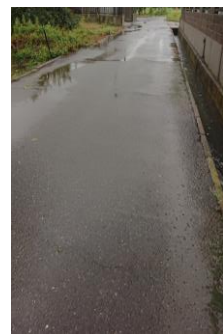
はじめに

今年のお盆のあいだ、西日本をはじめ広い地域で大雨の被害がでていて、怖いなと思った。これくらいの雨がもしつくばでも降ったら自分たちはどうすればいいか調べてみた。

うちの周りに水路や川はある？



家の道路向かい側の用水路



家の近くの池

家から一番近くの川までの距離は約2キロメートルだった。

大雨のとき、危なそうかな？



- 用水路は、水があふれた時に、道路との境目がわからなくなりそう。
- 家の近くの池は、あふれたりしないか心配になった。

どこにいれば安全かな？



家から、川までの高低差を国土地理院地図を使って調べてみると、家の方が10メートル近く標高が高いことがわかった。同じように、家から学校までの高低差を調べたら、家の方が約7メートルほど高かった。ということで、家にいるのが一番安全だとわかった。

おわりに

これまで平坦だと思っていたけど、予想外に高低差があってびっくりした。家が安全だと分かって安心したけど、学校は浸水予想区域に入っていたので、怖くなった。

自由研究で調べたこと、分かったこと、考えたこと

家のまわりに水路や池はあるか、大雨がふったらどんな危険（きけん）があるか、もしも近くの川があふれたら家は安全か、を調べてまとめてくれました。

国土地理院の「地理院地図」というサイトで、「断面図（だんめんず）ツール」を使って川と家の場所の高低差を調べ、家の方が5～10mほど高いので、家にいるのが安全だと考えたそうです。

研究員からのコメント

初めてふれる地理院地図を使って断面図（だんめんず）を作成し、川があふれた時に家が安全かを考えていて大変良かったです。

学校は浸水（しんすい）が想定される場所がありますが、例えば休みの日に学校にいる時に大雨がふったら、どのように行動するかなど、お家の人と話し合ってみてください。

2019年台風19号のときにも桜川の一部で水があふれましたが、1986（昭和61）年台風10号のときにも洪水（こうずい）が発生しました。また、筑波山のまわりには急なしゃ面や扇状地（せんじょうち）があり、土砂災害（どしゃさいがい）にもそなえる必要があります。もしも機会があれば調べてみてください。